

表参道日記 152

喧嘩を売られない国家に

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

2022年も残すところわずかなった脱稿時、1年間を振り返る。

昨年、一昨年ほどの脅威は薄れてきたものの、新型コロナウイルスの感染流行はまだまだ収まらない。それにしても日本人はマスクに対して真面目だ。屋外ゴルフ練習場でも大勢の人がマスクをしながら球を打っている。サッカーワールドカップやフィギュアスケートの国際試合を見れば、場外で日本のマスクミ陣だけが律儀にマスクを装着している。

来年こそはぜひとも、この息苦しい光景から脱出したいものだ。

突然に始まったロシアのウクライナ侵略。終息の気配は一向に感じられないが、この非情な戦争が始まったのも今年だ。いまだ要因を解説できないが、ヨーロッパの冬は一層寒くなっているようだ。世界平和は人類皆が望むところである。1日でも早く終わってほしい。

元首相の暗殺もショッキングであったが、ネットには犯人である山上を山神様と称賛し擁護する書き込みがある。ヤクルトスワローズの村神様

に失礼だし、SNS上でだけ不謹慎な主張を果たす輩は許せない。

このように、なんとも予測不能で不穏な日常が続くところ、今年の漢字一文字は「戦」。

そして直後の12月16日、国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の3文書が閣議決定した。

当然のこと、野党は猛反対。与党内でも賛否両論の議論が高まっているわけだが、今回の岸田文雄首相の演説は猛々しく頼もしい限りであった。

小職が務める病院管理は危機管理が日常である。まともな病院経営者であれば、「万が一」の有事が起らないよう費やす費用は決して惜しまないはずだ。

わが国の置かれている立ち位置を現実的に見据えれば、空恐ろしい未来が、ひしひしと近づいているように思える。

最強のボクサー・井上尚弥に喧嘩を挑む人間はいないであろう。国防の本義を考えれば、他国に対して決して喧嘩は売らないが、喧嘩を売られないような強い国家であれば、喧嘩を仕掛けられることはないという備えと単純に解釈している。

税金を喜んで払う人は見たことがないが、無駄な箱物建築よりも戦争回避に使われるほうが、はるかに有意義に思えるのは自分だけであろうか。

2023年が良い年になりますように！

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。
北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。
東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。
日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。
伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/>
名古屋甲状腺診療所（名古屋分院）<http://www.kojin-kai.jp/nagoya/>
さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院）<http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

